

平成 18 年 11 月 3 日

在タジキスタン共和国日本国大使館
臨時代理大使 高橋博史殿

特定非営利活動法人 難民を助ける会
理事長 柳瀬(吹浦) 房子
(代)ドゥシャンベ事務所
プロジェクトコーディネーター 沼田 恭男

日本NGO支援無償資金協力
事業完了報告書

平成 18 年 3 月 7 日付日本 NGO 支援無償資金協力贈与契約に基づく「ヌラバード郡地域住民の健康改善プロジェクト」(実施国：タジキスタン共和国)が、平成 18 年 8 月 6 日をもって完了しましたので、関係書類を添え下記の通り報告します。

記

1. 事業の実施期間：平成 18 年 3 月 7 日ー平成 18 年 8 月 6 日
2. 事業の実施成果（要約）：

(1)事業概要

本事業においてはヌラバード郡地域住民の健康状態の改善に寄与することを目的に、巡回診療、保健医療キャンペーンの開催、基本医療機材の提供を行った。

(2)事業の成果と達成度

ア. 巡回診療の開始

ヌラバード郡中央病院ヘルスセンターが指名した理学療法士候補者が、ドゥシャンベ中央病院が開催している短期トレーニングコースに参加し、理学療法士の資格を取得した。その後、同理学療法士はセンターに勤務する経験豊かな理学療法士とともに、39 歳から 96 歳までの男女 24 名の患者を対象に巡回診療を実施した。センターの人的、資金的能力を考慮し、巡回診療の対象患者選定にあたっては、治療による改善が見込めること、及び数回の自宅での治療後、自力で継続的にセンターへ通えることを条件とした。

イ. 保健医療キャンペーンの開催

ヌラバード郡の約 8,000 世帯の住民に対し、当会供与機材を利用した治療の可能性や健康管理等についての説明を実施。あわせてこのキャンペーンでは、合計 5,383 部の保健医療キャンペーン用の冊子を配布した。

ウ. 基本医療機材の提供

超音波エコー、理学療法機材 5 点、歯科治療機材、眼科用医療機材の計 8 点を供与した。

(3) 事業の自己評価

ア. 妥当性

当会は 2003 年度日本 NGO 支援無償資金協力による「ダルバン郡（ヌラバード郡の旧称）ヘルスセンター建物再建支援」事業によって、内戦中に焼け落ちた同センターの再建を支援したが、再建後も機材更新や新規導入は滞っていた。

機材不足によって同センターでの受け入れが困難なため首都ドゥシャンベなどの医療機関を利用せざるを得ない患者の経済的、身体的負担、及びドゥシャンベなど遠方の医療機関を利用できない患者がいる状況から本事業は妥当であったと判断できる。

イ. 効率性

本事業の支援によって理学療法士となったスタッフ（男性）、加えて従来から同センターに勤務する理学療法士（女性）の 2 名で巡回診療にあたったため、適切な患者選定ができた。さらに機材を同センターだけでなく患者宅まで持参して治療し、今回供与した機材の活用にもつながった。供与機材の選定にあたっては、同センターから導入機種の要望を受け、必要不可欠な機材の供与に絞った。一方保健医療キャンペーンでは、地域に根ざしたヌラバード郡の医療関係者を実施主体としたため、実施地域の選定や地域の医療課題の把握などを効率良く行うことができた。

ウ. 有効性

保健医療キャンペーンを通じ、参加者に同センターやヌラバード郡の医療体制などを良く理解してもらうことが出来た。また冊子を作成、配布したことにより、同キャンペーンに参加できなかった人たちにもヌラバード郡の保健医療を知る機会を与えることができた。その結果、これまでセンターを訪れることのなかった患者を対象に巡回診療を実施し、新たな診察・治療の機会を提供できた。さらに基本医療機材の提供によって、地域住民が地元で身体的機能の維持・回復を図れるようになっただけでなく、様々な内臓疾患の早期発見や妊婦の健康管理、眼科の各種疾患の早期発見などができるようになった。

エ. インパクト

保健医療キャンペーンを通じ、住民にセンターへの関心を抱かせることができた。基本的医療機材の提供によって、同センターの機能が高まった。さらに巡回診療が始まることで、これまで医療サービスを受けられなかった人たちに、健康改善の機会を与えることができたことから、医療を必要としている人々にとって正のインパクトがあったと判断できる。

オ. 自立発展性

既に同センター独自で遠隔地に住む女性を主な対象として、巡回診療を開始した。保健医療キャンペーンで作成、配布した冊子が各家庭で保存されることによって住民の健康維持に役立つと考えられる。さらに同センターへ供与した機材はいずれも同センター側の要望を受け、タジキスタン国内の業者から購入しており、修理や部品交換は比較的容易に行えると考ええる。

(4) 今後の方針

地域住民の健康改善に対する成果を判断するためには、長期的なモニタリングが必要である。当会は、1年後を目処に地域住民の健康がどの程度改善したのか確認するためにモニタリングを実施する予定である。

3. 日本NGO支援無償資金精算額：41,535米ドル

4. 会計報告：別紙の通り

5. 外部監査報告書提出予定日：平成18年11月15日

【添付書類】

- ① 会計報告関係：事業資金収支表、資金使用明細書、支払い証拠書写し綴り
- ② 事業の成果（詳細報告書）
- ③ 事業内容説明写真
- ④ 保健医療キャンペーン冊子

添付 2 : 事業の成果 (詳細報告書)

1. 案件名 : ヌラバード郡地域住民の健康改善プロジェクト
2. 実施地 : タジキスタン共和国 ラシュト地域ヌラバード郡 (旧ダルバン郡)
3. 事業成果 : 本プロジェクト中、3つの活動 (巡回診療の開始、保健医療キャンペーンの開催、基本医療機材の提供) それぞれについて、実施前の状況と目的、成果を以下にまとめる。

	プロジェクト実施前	目的	プロジェクト実施後
巡回診療	ヘルスセンターに在籍する理学療法士が不定期に巡回診療を実施していた。同センターには理学療法士が1名のみであり、巡回診療に活用できる携帯可能な機材も整っておらず、巡回診療の実施には限界があった。	新たな理学療法士を育成。具体的には、同センターが新たに雇用した理学療法士1名に対して、ドゥシャンベで理学療法の訓練を積む。2名の理学療法士が当会の助言を受け、巡回診療の対象患者を選定。当会が提供する新機材で巡回診療を定期的に実施。	同センターが指名したセンター医師がドゥシャンベで1ヶ月間訓練を積み、理学療法士の資格も得た。センター近くに住むにも関わらず、これまでセンター利用経験のない24名の患者の自宅で診療と治療を実施し、センターへ治療を受けに来るように指導。その後、患者はセンターで本格的な治療を受けている。
保健医療キャンペーン	ヘルスセンターのサービスを知っている住民は決して多くなく (全体の約半数)、訪れたことのある住民は更に少ない (プロジェクト期間中の当会アンケートより。後述 5. を参考)。	同センターや供与機材、ヌラバード郡の保健医療体制を知ってもらい、センターを訪れる患者を増やす。健康な日常生活を送るために役立つ医療知識についても説明し、住民の保健意識の向上を図る。	ヌラバード郡の約 8,000 世帯から、延べ 9,117 人が参加。計 5,383 部の冊子を配布。結核や妊婦の健康管理などについても説明した。7 月中に同センターで行ったアンケートでは、回答者の 6 割以上がキャンペーンもしくは冊子をきっかけに同センターを訪れ

			たと回答。
基本医療機材 提供	理学療法機材の一部や超音波エコー、歯科治療機材などの基本医療機材が政府の予算不足により更新されていない。さらに眼科診察機材は未整備の状態であり、診療科が存在しない。このため、同センターでは対処できない患者をドゥシャンベなどの医療機関に照会している。	計 8 点の基本医療機材を提供。地元地域で診察から治療まで一貫した医療を受けられるようにすることにより、患者の身体的・経済的負担を軽減する。	医療機材 8 点を提供。停止状態であった理学療法と超音波エコーの両部門で診察・治療が本格的に再開されたほか、新たに眼科の診察ができるようになった。また、当会が 7 月中に行ったアンケートによれば、回答者の約 9 割が供与機材で診察・治療を受けていることが明らかになった。すなわち、以前から病気を抱えていた人の多くが、医療機材が整備されたことでようやく治療を受けられるようになったと言える。

4. 事業の流れ

(ア) 巡回診療の開始

- ① 巡回診療開始：以前から同センターに勤務している女性理学療法士とともに、当会が育成を支援した理学療法士がヌラバード郡中心部を対象に患者選考を開始。同郡の入院患者を専門とする中央病院のカルテなどを基に、継続して高度な治療を受ける必要があり、同センターに継続的に通院することができる可能性が高い 39 歳から 96 歳までの男女 24 人を選んだ。

本年 6 月 30 日から 7 月 22 日までの金・土曜日、当会が供与した理学療法機材の一つ Electrophoresis Apparatus（電流を体内に流すことで麻痺やこわばりを軽減する機材）を持参し、24 人の患者をそれぞれ 1 回ずつ訪問。問診や検温に続き、同機材を使っての治療を実施した。24 人の患者は 8 月以降、10-15 日間にわたる本格的な治療を順次、同センターで受けている。

- ② 理学療法士の育成支援：以前から同センターに勤務していた眼科医師を研修生に選出。5 月 19 日から 6 月 17 日まで、ドゥシャンベ中央病院が主催する短期トレーニングコースにて理学療法に関する訓練を積み、同月 19 日に理学療法士の資格を得た。

(イ)保健医療キャンペーンの開催

- ① ワークショップの開催：医療機材搬入以降、キャンペーンの開催場所や時期について、同センターと協議を開始。郡内の村の情報（村名、戸数、人口、郡中心部からの距離）、開催場所と回数の案を同センター側から受けた。

さらに当会も4月30日、同センターの認知度や健康状態などについて患者からの聞き取り調査を行った結果、センターがあまり知られていないことや多くの住民が内臓疾患などを患っていることが分かった。これらの結果を基に、同センターとの協議のもと、キャンペーンの日程や内容を決定した。

同センターは5月31日、郡内の医療関係者を集めての定例会を開催。当会は外部への活動紹介や今後の事業に参考とするための保存用100部を除く7,900部を会合に持ち込み、各関係者に配布した。キャンペーンは6月1日から同月22日まで、郡内の全101カ村で実施。5,983人の男女が参加し、4,375部の冊子を配った。7月15日から同月末まで、追加キャンペーンを延べ28カ村で開催。3,134人の男女が参加し、1,008部の冊子を配った。残部の約2500部は、センターが来年開く予定の同様のキャンペーンで配布される計画。キャンペーンでは、以下の点について医療関係者から説明があった。

1. 当会供与機材
 2. 同機材で診察・治療できる症例
 3. スラバード郡の医療体制
 4. ヘルスセンターの状況
 5. 基礎的な保健医療の情報（幼児への予防接種と十分な栄養補給、家族計画、結核・高血圧・リウマチ予防、腎臓や肝臓、背骨などに関する各疾患予防、良い衛生状況を保つ必要性）
 6. 供与機材を使った巡回診療
- ② 保健医療教育パンフレットの作成：医療機材を搬入した4月17、18日に向け、キャンペーンで配布する冊子の内容について、ヘルスセンター側と協議を実施。今回供与した機材の説明や写真を中心に、同センターやスラバード郡の医療体制の説明を盛り込むこととした。同月末までに、同センターから原稿を受け取り、当会で撮影した機材の写真も合わせ、国際機関等との実績のあるトルコの印刷業者にデザインを依頼。5月15日にデザイン料と8,000部の冊子代計755ドルを支払い、同月25日にトルコ・イスタンブールより到着した冊子を受け取った。

(ウ)基本医療機材：ヘルスセンターとの調整により、理学療法機材5種5点、超音波エコー1台、歯科治療機材1台、眼科診断機材1台の計8点を選定。歯科治療機材は、当初予定していたスロバキア製（Cherodent型）が製造中止となり、入手が

困難になったことから、機能と価格が同じ台湾製（MG136 型）に変更した上、4 月 3 日に輸入業者と購入契約を結んだ。同月 14 日、業者から全ての機材がドゥシャンベに着いたとの連絡を受け、同月 17 日に全 8 点を同センターに搬入した。

その後、各機材の使用が順次始まったが、理学療法機材の一つ UHF Apparatus と超音波エコーの機能の一部に不具合が出たため、7 月下旬から 8 月上旬にかけて輸入業者に修理を依頼。保証期間内だったため、無料で修理することができた。

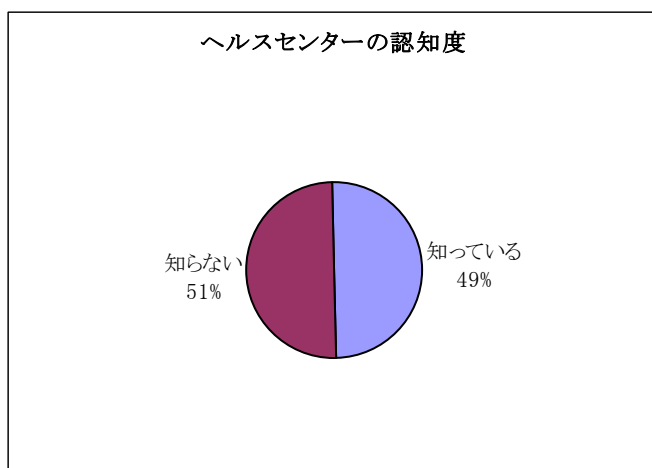
また 8 月 3 日、同センターの資金不足により Paraffin（蝋）を調達することが出来ず、供与機材の内、理学療法機材の 1 点、Paraffin Boiler が使用されていなかったこと、給排水を行うコンプレッサー設置が完了しておらず、供与機材の内、歯科治療機材も同じく使えないままになっていたことが判明した。

このため、同月 4 日に当会が Paraffin12 キロ（同センターでの約 2 年分の使用量に相当）を購入し、6 日までにセンター側に引き渡した。さらに同月 5 日にドゥシャンベの専門家にコンプレッサー設置を依頼し、翌日取り付けが完了した。事業終了時まで、すべての供与機材の使用が確認されている。

5. アンケート結果から

本事業では、保健医療キャンペーン活動のうち、ワークショップへの参加者を対象に、アンケートを実施した。以下は、その概要である。

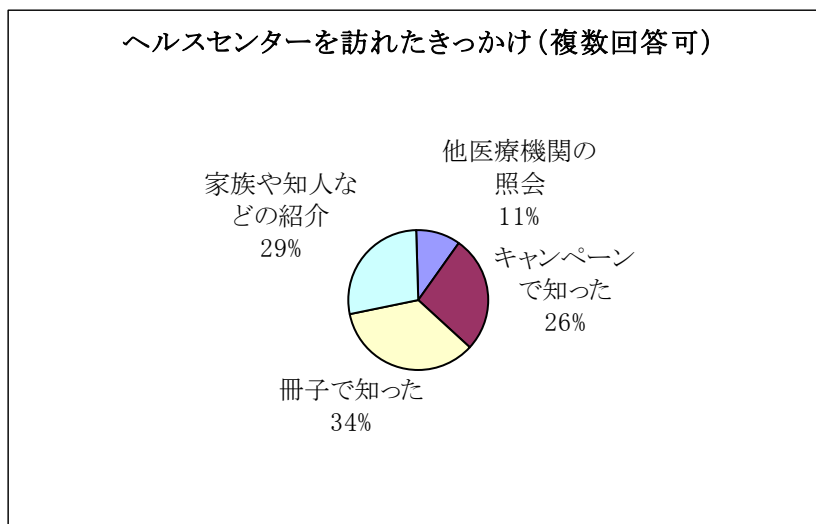
(ア)ヘルスセンターの認知度：同センターはヌラバード郡の外来患者専用の医療施設であるが、実際の認知度については確認できていなかった。住民の認知度は冊子作成やキャンペーンの内容・方針決定にも大きな影響を与えるため、当会は 4 月 30 日、先行して独自調査を実施。また、6 月 21・22 の両日、キャンペーン期間中にもアンケートを行った。郡内の 3 カ村の 30 人に聞き取りを行った 4 月の調査では、わずか 2 人が同センターを知るのみだった。また、郡内 7 カ村の 65 人を対象に行った 6 月の結果は以下の通り。



これら 2 回のアンケートはいずれも郡内の地域バランスを考えて実施した。認知度は一概に同センターへの距離に関係しているわけではなく、それぞれの地域で活動する医療関係者の努力や、地域医療機関と同センターとの連携の有無等が反映されていると考えられる。

アンケート結果から、キャンペーン以前は住民の大部分が同センターを知らなかったが、キャンペーンを実施し冊子を配布したことによって、認知度の押し上げに大きく貢献したことが明らかになった。詳しくは次項「キャンペーン後の患者来院傾向」を参照。

(イ) キャンペーン後の患者来院傾向：キャンペーンが終盤を迎えた 7 月 14 日、当会はヘルスセンターで郡内 17 カ村・地域の患者 34 人を対象に、本事業が患者の来院傾向にどのように影響を与えたのか聞き取り調査を実施した。



以上より、回答者の 6 割以上がキャンペーン、もしくは冊子をきっかけに同センターを訪れたことが分かる。本来、地域ごとの医療機関で対処できない場合、より高度な医療機関（同センター、中央病院）に照会する体制が敷かれている。しかし調査結果から、本事業のキャンペーンや冊子をきっかけに来院した患者が多いことが判明した。また中央病院の院長によると、冊子を手に入れた患者による治療を希望して多くの年配者が訪れるなど、効果は徐々に広がりつつあると考えられる。

(ウ) 供与医療機材の使用状況：ヘルスセンター側による、患者数の推移は以下の通り。

	平成 17年5 月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成 18年1 月	2月
総患者数	2,835	3,785	2,714	1,602	2,325	2,336	944	2,314	1,794	2,358
歯科	114	206	201	120	126	159	94	259	148	141
理学療法科	13	11	13	16	13	6	12	0	0	0
超音波エコー使用 件数	112	96	96	102	87	0	0	0	0	0
眼科診察機材使用 件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(単位:人)

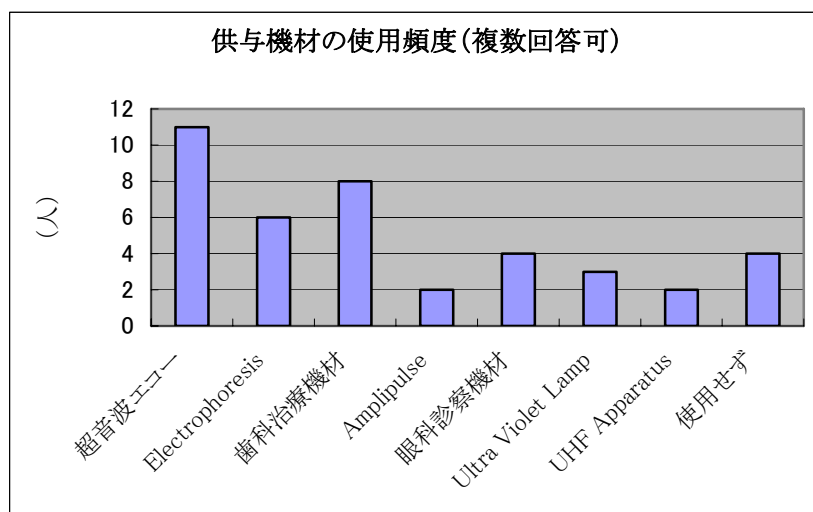
	平成18 年3月	4月	5月	6月	7月
総患者数	2,624	1,458	2,513	1,963	2,123
歯科	168	152	113	107	312
理学療法科	0	0	22	26	28
超音波エコー使 用件数	0	0	217	254	205
眼科診察機材使 用件数	0	0	213	223	0

(単位:人)

機材を供与した4月以降と今年1-3月、キャンペーンを開始した6月以降と今年1-3月を比較しても、総患者数では増加は認められない。昨年12月から今年4月にかけて、理学療法科の患者数が0人となっているのは機材老朽化のため診療が実施できなかったためである。昨年10月から今年4月にかけて、超音波エコー使用件数が0人となっているのは同じく機材老朽化が原因である。また、平成18年7月に眼科診察機材の使用件数が0人となっているのは、同センターの担当者出張のためである。

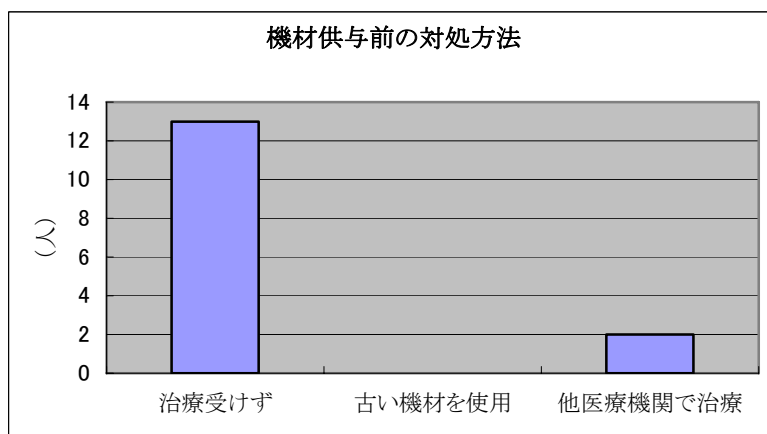
郡中央病院院長によると、機材供与やキャンペーンの効果を見極めるには少なくとも半年かかるという。しかしながら、理学療法科と超音波エコーを使用した患者数が昨年同月比でいずれも上回っている。また本事業による機材供与後、眼科の診察が行えるようになり、7月までに延べ436人の患者が診察を受けていることから機材供与が地域住民の医療環境へ大きな影響を与え

たと言える。



同センターを訪れた患者の機材利用頻度に関する統計によれば、アンケート対象者 34 人中 30 人が供与機材を利用していることが分かる。超音波エコーで診察、診断した後、別の機材を利用して症例に応じた治療を行うなどしているため、複数の機材を利用する患者が多い。また郡中央病院院長によれば、超音波エコーを持参して同病院が実施した村落での健康診断によって、発見が遅れていれば命の危険がある妊婦の病気を発見し、救うことができた事例があった。少しずつ機材供与の効果が現れつつある。

(エ) 患者の負担軽減：本プロジェクトの目的の一つであった「地域住民の健康改善」への効果を見極めるため、同ヘルスセンターで対応できない際、患者がどのような行動をしているのか調査を実施した。



ヘルスセンター側によると、これまでほかの医療機関での診察や治療が必要になった場合、紹介状を患者に渡していたが、実際に患者が訪れたかどうかについては確認していなかったという。このアンケート結果から、実際には大半の患者がドゥシャンベなどでの診察や治療を諦め、放置しておいたことが分かる。

一方同センターによれば、機材供与後は 8 月 3 日時点まで、一通の紹介状も書くことなく、同センターとヌラバード郡中央病院で患者の診療、治療を行うことが出来ている。以上から、地域の医療環境が確実に構築されつつあると言える。

6. 今後の展望：

基本医療機材供与に加えて、保健医療キャンペーン、巡回診療を実施したことにより、広く住民にヘルスセンターと供与機材を紹介でき、患者の来所行動にも結びついていることが分かった。本アンケートはキャンペーン期間中に行っており、ヌラバード郡中央病院長が指摘するように、実際の効果を見極めるにはしばらく時間がかかる。しかし今後も一定数の患者数増加が見込まれ、同センター側が引き続き供与機材を用いて巡回診療を継続することによって、同郡の健康改善に寄与するものと考えられる。

一方、同センターから離れた地域の住民にとって、センターを訪れることは時間的にも経済的にも困難を伴うのは事実である。今後、交通手段の問題や地域が抱える経済的問題をも見据えた取り組みが必要となってくると考えられる。

以 上